



2017 February

No.534

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

人吉医療センターファーストエイド実技コース開催



平成 29 年 1 月 15 日（日）当院で当地域初開催となる「ファーストエイドコース」が開催されました。

ファーストエイドとは、「急な病気やけがをした人を助けるためにとる最初の行動」のことで、適切な緊急・応急処置を実施し、苦痛を軽減させる、または病状の急激な悪化を防ぎ、病院や救急隊につなぐまで行う手当を指しています。

このコースは、様々な救急・急変時に、専門的な救急処置が開始されるまでの間、看護職として適切な緊急・応急処置ができる人材を育成し、日本救急看護学会が主催する本コースを受講し、修了試験に合格し実技コースを修了した者に学会が認定する「ファーストエイドナース」の名称を付与することで、わが国の救急医療の質向上に貢献することを目的に行われています。

午前の部、午後の部と一日を通して行われ、当院看護師だけでなく鹿児島や宮崎など県内外から 27 名の受講生が参加しました。

研修は小グループに分かれ、迫真の演技を演じる傷病者役に、問診・視診・聴診・打診・触診などを行いながら進めます。病院内であればすぐに対処できることでも、院外では必要な器材が無いため対処方法が限られます。どう

いった病態を考え、悪化させないための処置はどうしたらいいのか？と考察し、処置を行なっていました。

最初は何をするのかわからずとても緊張しましたが、徐々に緊張もほぐれ真剣な中にも笑顔溢れる研修となりました。

今後も継続してファーストエイドコースを開催することで救急医療の質向上に繋がると考えています。ファーストエイドインストラクターの皆様、お忙しい時期に当院でのコース開催ありがとうございました。

また、院外参加者からも以下のような感想を頂いております。

7 階病棟 看護師 立開 光義

今回ファーストエイドを受講し、瞬時に患者さんの状態や患者さんの背景を分析することで逸早く他のスタッフやドクターへ伝達し、対処できるのだと学ぶことができました。

今回受講したことを生かし業務にあたりたいとおもいます。

敬仁病院（八代市）看護師 木下真央

院内 ICLS コース開催

去る2月5日、院内でICLS（Immediate Cardiac Life Support）コースが開催されました。このコースは、突然の心停止に対するチーム蘇生を習得するもので、ここ人吉では5年ぶりの開催となりました。開催にあたって、松本外科内科医院（熊本市）の松本孝嗣先生をコースディレクターにお招きしました。

コースの前半では、胸骨圧迫（心臓マッサージ）やAEDなど、蘇生に必要なとされる基本的な知識・技術を再確認したり、電気ショックを行う機械（除細動器）の扱

い方を実物に触れながら学んだりしました。後半は、急変した患者さんを想定した実習でした。チームで役割を分担し、患者さんの蘇生に必要な処置を行っていきます。実習を何回も繰り返す中で、蘇生の手順を整理することができ、質が少しずつ良くなっていくのを感じました。最後には全員が自信をもって蘇生に携わることができるようになりました。

開催にあたりご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。今後も研鑽を続け、患者さんのお役に立てるよう努めて参ります。

臨床研修医 佐野 あゆみ

最新 & 高機能 256 列 CT 装置を導入します。

現代医療においてCT検査は欠かせない検査の一つとなってきました。装置には、より多くの情報を、速く、安全で、放射線被ばくがより少なくなるような性能が求められています。

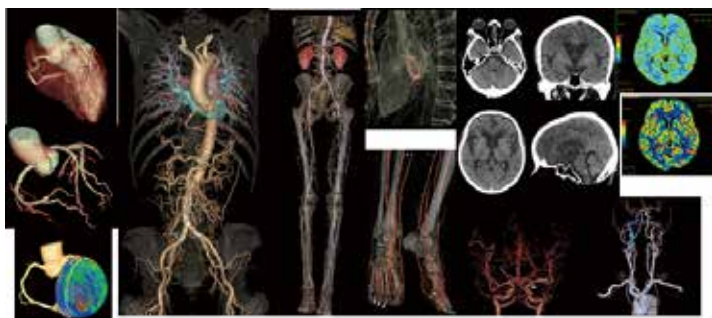
そこで、当院ではGE社製の最新型256列CT装置である「Revolution CT」を導入し、今年4月1日より稼働する予定です。

従来のCT装置と比べ、格段に進歩した高速かつ低被ばく撮影により、息を止めるのが困難な場合や、じっとしてられない小児の撮影にも対応することが可能とな

ります。一回転の撮影範囲は4倍の40mmから160mmになり、一つの臓器（脳や心臓）をカバーすることが可能となります。これは、特に心臓撮影において1心拍での撮影が可能となり、検査結果に影響する「高心拍や不整脈」にも対応しやすくなります。

また、その他どの領域にとっても大きく貢献しますが、特に救急医療の検査においては高い解像力で広い範囲を、短い時間で撮影することが可能になります。

画像診断センター 吉本 大祐



チームで支えるがん治療 vol.4 ～がんリハビリテーション～

本院ではがんに対して手術、化学療法、放射線療法をした方に対して早期に日常生活が改善できるようにリハビリテーションが処方されます。痛みを起こさないような床上動作の方法、歩行訓練、嚥下機能の改善や食形態の選択、日常生活での注意点など指導し、自宅へ帰る前には段差や屋外歩行訓練を行い安心して在宅での生活が出来るようにします。主に外科の術後や血液内科の化学療法の患者様を中心に、朝の回診や、カンサーボード、カンファレンスに参加し医師・看護師・薬剤師・栄養士・MSW・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士で状態の確認や情報共有をしています。平成28年は2620件でした。

緩和ケア病棟では、症状にもよりますが自宅退院に向けて日常生活や体力改善を進める方や、症状緩和の為に

マッサージや本人や家族との会話、車椅子での散歩をしています。また在宅へ外出や外泊への移動介助、退院後の訪問を行うことで退院後の在宅生活が続けられるように支援しています。平成28年は1350件と年々増加傾向にあります。

毎年増加しているがんに対するリハビリテーションは、携わるリハスタッフの育成と研修会への参加が今後の課題です。



リハビリテーションセンター 塚島 靖博

第2回 人吉コース開催 INARS 九州プロバイダーコース

平成29年1月14日、第2回INARS(アイナース)人吉コースが開催され、人吉球磨地域をはじめ、熊本市内、鹿児島県や宮崎県、当院職員など、計21名の参加がありました。

看護師対象のINARSプロバイダーコースの目的は「心停止を回避」する。実技を通して、患者の「評価→認識→安定化」のための行動を繰り返し行い、体系的アプローチをチームで学んでいきます。本コースでは一人で悩むのではなく、口述してチームで情報を共有し行動する、チーム力を上げるために何をすべきかを学びます。また、評価の過程で得た情報により、重症度とは別に緊急度を認識して、医師への報告が苦手な看護師も、コースの中で「報告の目的」「報告のタイミング」「報告の内容」考えながら繰り返し実践することで、状況に応じた報告方法を学ぶことができる、現場に即したコースとなっています。

危機回避は患者さんへの安全の提供へつながり、患者

さんへの安全はスタッフへの安全にもつながります。

九州各県から招集されたインストラクターの巧みなインストラクションで、明るく楽しい雰囲気の中でコースを学ぶことができます。第1回開催時に受講された当院スタッフはコース運営やタスク(復習参加)に参加し、3名のインストラクターも誕生しており、受講しやすい環境づくり、定期開催を支えてゆける体制を整えております。当院で開催されるおりにぜひ受講し、愛ナースになりませんか。

外科外来 看護師 愛甲 宣代



《受講生感想》

日々、患者さんに携わる中で急変に繋がるかもしれない症状や兆候を認識した場面が今までに何回もあり、その度にあれでよかったのかと不安になる時もありました。対応能力について考えを深め、改めて学んでみたいと思い今回INARSを受講しました。

講習の中では体系的なアプローチを他病院の参加受講者と共にディスカッションをしながら、一つの症例をあ

らゆる視点から評価に繋げ、認識し行動することで心停止を回避する重要性を学ぶことができました。心停止になってからでは遅いので、今回の学びを基にその前の予兆の段階で早く介入しチームで情報共有しながら心停止に回避できるよう今後に生かしていきたいと思います。

今回の受講に対し、九州内の様々なスタッフの方々に感謝いたします。ありがとうございました

5階西病棟 看護師 上田 一美

第8回 人吉医療センター緩和ケア研修会

1月21・22日、当院3階講堂にて第8回緩和ケア研修会:PEACEを開催しました。

この研修会はがん対策推進基本計画における「すべてのがん診療に携わる医師に対する、緩和ケア研修会」に則り、がん診療に携わる全ての医療従事者が研修によって基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得する、困った時に相談する必要性を理解することを目標としています。当院は地域がん診療連携拠点病院として、毎年この研修会を開催しています。

受講生は、馬場秀夫教授(熊本大学 消化器外科)、矢野茂敏准教授(熊本大学 神経外科)をはじめとして、熊本赤十字病院 研修医、人吉市の歯科医師、薬剤師、当院スタッフと、計19名の方が受講されました。

研修は2日間にわたり「緩和ケアとは」という概論から、「つらさ」の包括評価と症状緩和・呼吸困難・消化器症状・



精神症状に関する講義、がん疼痛事例検討が行われました。

「悪い知らせを伝えるとき」のロールプレイ、さらには地域連携と治療・療養の場の選択について

のグループワークが行われ、医師・患者・観察役になりそれぞれが役になりきり自分の思いを表出するなど活発な意見が交わされました。

医師役をした受講者からは「告知する時、患者の目を見て伝えようとしたが話せなかった」「伝えたい事が先行し早口になる」「どういう風に伝えたいのか分からない」「患者の理解度がどの位なのか見極めが必要」など、患者役をした受講生からは「頭が真っ白になった」「自分の将来の事や家族の事を考えてしまい医師の話が耳に入らない」などと感想がありました。全体的に「具体的ないいまわし、沈黙の大切さが理解でき大変勉強になりました」「患者さんの気持ちになることや、医師役になって伝える事の難しさを体験することができて良かった」など肯定的な感想をいただきました。

来年度の研修会は平成30年1月頃に開催を検討しております。多くの受講者をお待ちしておりますので、是非ご参加ください。

9階病棟 看護師 横枕 めぐみ



ALSO プロバイダーコース研修を終えて

ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) : オルソとは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対応できる知識や能力を身につけるための教育コースのことです。全米ではほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOを受講することが義務付けられていて、世界的に普及活動が行われています。



昨年、初めて熊本県で開催され、当院から3名の医師・助産師が受講しました。そして今回の研修に4名受講し、無事にプロバイ

ダー認定を受けることが出来ました。

周産期救急で起こる吸引分娩・肩甲難産・産科大出血などの講義とマネキンを使った実技学習があり、みっちりとした2日間でした。医師が行う医療処置についても実技を行い、チームのリーダーとなって自ら指示を出し、コミュニケーション能力を高めるためにどう動けば良いかなど、毎日の現場ですぐに生かせる内容でした。

今後も人吉球磨地域の周産期医療向上のため、チーム一丸となって頑張っていきたいと思っています。

産婦人科 医師 愛甲 啓
助産師 中渡 春香、平野 美穂
矢立 智春

研修医挨拶



初期研修医1年目岡崎孝広と申します。熊本大学との協働型研修プログラムで2017年1月から3月までの間、人吉医療センターで研修させていただきますのでどうぞよろしくお願い致します。これまで熊本大学では主に内科で病棟業務の研修を行ってきました。そのため外来や初期診療の経験に乏しく、救急についてもまったくの初めてといった状態でこちらにやって参りました。救急の激しさに定評のある人吉医療センターで果たしてやっていけるのかという不安はありますが、幸いにも大学の同級生が研修医として数名在籍されていますので、なんでも聞ける相談相手として心強く感じています。また、上級医の先生方や先輩の研修医の先生方からも親切丁寧な指導をして頂いております。

私の出身は熊本県で、かつて飽託郡飽田町と呼ばれた地方です。熊本高校を卒業後、九州大学の経済学部に進学さらに大学院へと進みました。博士課程を中途退学し医学の道へと進路変更しましたので、他の研修医と比べていささか歳を取っております。そのため見た目は落ち着きがあるとか貫禄があると言われるかもしれませんが中身は割と必死です。

3ヶ月間と短い間ですができるだけ多くを学び取れるように、そして人吉球磨の医療に少しでも貢献できるように努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 岡崎 孝広

人吉医療センターから Jalan Jalan

Jalan Jalan (ジャラン・ジャラン) とは、インドネシア語で「散歩」を意味します。

人吉医療センターの近隣には素敵な場所がたくさんあります。

これからシリーズ化して、少しずつご紹介させていただきます。人吉においでの際はぜひお立ち寄り下さい。

「老神神社」は、霧島神社を勧請したと伝えられていますが、創立年代は不明です。現在の本殿は、江戸時代のはじめの寛永5年(1628)、人吉藩主・相良長毎(ながつね)とその子・頼尚(よりなお)によって相良氏一族の産宮として再興されたものといわれています。

拝殿および神供所は、元は茅葺きの鍵屋になっていたものを近代に切り離したものです。藩主の産宮として造営されたため、漆塗り、彩色を施した豪華な造りに加え、嵌め板等の細部にこの地方特有の意匠がみられ、球磨地方を代表する江戸時代前期の神社建築として価値が高いといわれています。

今回、実に22年ぶり(H77年が最終)に「老神神社」の茅葺屋根の差し替え工事が熊本市 島崎工務店のもと昨年12月16日~3月31日の工期で行われています。

工事の工程は、下記の通りとなっています。

1月:足場組立、茅小屋組立

2月:屋根面足場、屋根面養生、周囲樹木枝払い、旧茅葺解体、茅葺・差し茅、補強鉄骨、塗装補修、棟仕舞

3月:竣工予定

日本でもっとも豊かな隠れ里一人吉・球磨一の日本遺産でもある「老神神社」とともに当院も一緒に歴史を紡いで成長していきたいと思っています。

医療福祉連携室 今井 志帆



入りの梅も満開です



*在宅医療の後方支援を行っています

当院は、在宅療養されている患者様やご家族が安心して自宅で過ごせるように、**緊急時**、在宅医療を行っている医療機関（以下、在宅医療機関）の患者様の**後方支援を24時間体制**で行っています。

在宅医療を支えていくために、当院も「在宅療養後方支援病院」として届出を行いました。

在宅医療機関と**定期的に情報交換**を行い、患者様の情報を把握し、緊急時における**迅速な対応及び入院受け入れ**の後方支援を行います。やむをえず、当院での入院が困難な場合には、適切な医療機関を調整します。

【在宅療養後方支援の流れ】

1、事前登録（決まった在宅管理料を算定している患者さん対象）

「入院希望申出書（様式1）」、「診療情報提供書（初回）（様式2）」を提出し、事前に患者情報を登録。

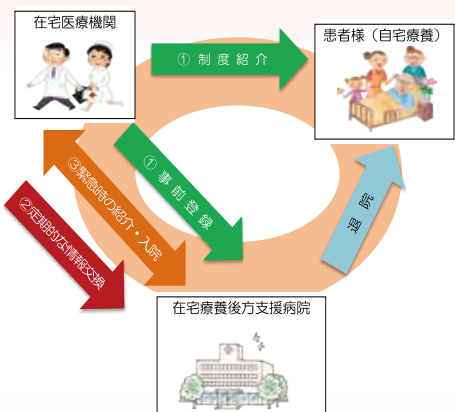
2、定期的（3ヶ月毎）情報交換

当院から在宅医療機関に決まった書類をFAX、返送していただきます。

3、緊急時の紹介流れ

状態悪化・急変時紹介。「在宅療養の登録患者」とお申し出下さい。受診時に「在宅療養患者カード」を提示して下さい。

*登録から紹介までの流れイメージ図



登録についてのお問い合わせ先

独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター
医療福祉連携室 TEL0966 22 2191（内線240）

ストレスチェック実施しました。

1 目的

平成26年6月25日、労働安全衛生法が改正され、第1回のストレスチェックを平成28年11月30日までに実施することが義務付けられ、当院も10月に実施しました。

ストレスチェックは労働者のメンタルヘルス不調の未然防止、対応、職場環境等の改善、休業者の職場復帰の為の支援等が円滑に行われることを目的としており、①高ストレス者に自身のストレスへの気づきを促す。②職員のストレス状況を早期に把握し、職場環境を改善することでメンタルな不調に陥る職員を減らそうとするものです。

今回の回答者は243名/484名でした。

2 対応

その分析結果はチェックシートの回答を点数化し「あなたのストレスプロフィール」に図として示しています。内容は①ストレスの原因と考えられる因子 ②ストレスによっておこる心身の反応 ③周囲のサポートの3つの視点です。点数が低く、

レーダーチャートの面積が小さいほど、ストレス反応が高まりやすい、あるいは高まっている状態と考えられます。記載内容を参考にして心の健康管理に役立ててください。

労働安全衛生委員（共同実施者）村口が窓口となり、産業医と調整を行い面接指導を行います。

3 最後に

自らの心の健康度を知り、自分では気づけなかったストレスを知って頂けたらと思います。

労働安全衛生委員会が中心となり、今後も年1回実施していきますのでよろしくご協力ください。

労働安全衛生委員会 村口 ゆり



連携施設探訪 「桜の里」 特別養護老人ホーム Vol.2

【施設の特徴】

上球磨の地域で生きがいのある生活を支える福祉サービスの拠点として使命を果たし、地域の皆様の期待に応えます。

木のぬくもりに包まれた日本ではじめての木造平屋建築の特別養護老人ホームで、3ユニット30名のご利用者様を、それぞれの個性と、生活歴などに合わせて生活の支援、健康管理、又、リハビリなどのお世話をさせていただきます。木の香りと明るく差し込む陽光がご利用者様の生活を優しく包んでいます。

【サービス内容】

施設サービス（入所）、居宅サービス（短期入所、通所介護）、短期入所生活介護サービス、通所介護サービス、居宅介護支援事業所

【地域の皆様に一言】

当施設では、『「信頼」- 私たちは利用者の方、ご家族の皆様に信頼される安全で質の高い介護を提供します、「尊重」- 利用者の皆様の人格を尊重し、常に相手の立場にたって、快適な生活が過ごされるように努力します、「真心」- 家庭的で明るい心のこもった環境づくりに努力します』の理念の下、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、日常生活圏内のサービス拠点施設としての役割を担い、地域の福祉に貢献できるよう職員一同頑張っています。

【連絡先】

桜の里：0966（44）0770 相談員 椎葉智美

※当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活をしていただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して、地域包括ケアを推進していきたいと考えています。



院内クリティカルパス発表会 開催



1月12日に院内クリティカルパス発表会を開催しました。

この発表会は、毎年2回クリティカルパス委員会を中心に院内で開催しており、院内で使用する新規または改訂したクリティカルパスを発表し、そのパスに対して意見を出し合い、さらにより良いものにして実際に使用していくことを目的としています。

今回は、計53名の参加があり、「開頭クリッピング術」「内視鏡的胆道ステント留置術」の2題のクリティカルパスの発表がありました。発表後に参加者よりたくさんのご意見、ご質問を頂きました。この2題につきましては、今年3月に行われる日本医療マネジメント学会 第19回熊本支部学術集會に出題予定です。発表者の方には是非頑張ってください。

次回のパス発表会については、日程が確定次第、事前にご連絡しますので、発表されるパスの担当部署並びに関係部署の方、興味のある方は是非ご参加下さい。

クリティカルパス委員会 田頭 隼人

新 任 紹 介



たけみや きよ 竹宮 貴恵 (5階西病棟・看護師)

最終卒業校：名古屋市医師会看護専門学校

趣味：ヨガ、旅行

好きな言葉：継続は力なり

自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：いろいろと質問をしまい迷惑をおかけしてしまうと思いますが、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

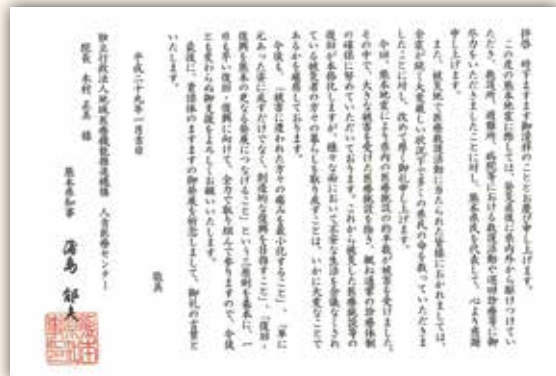
平成 28 年度消防訓練

2月8日に平成28年度消防訓練を実施しました。
新人職員を中心に消火訓練、避難訓練等を行いました。



県知事礼状

平成28年4月14、15日に発生した熊本地震に際し、当院で行いましたDMAT2隊の出動、ドクターヘリによる被災者関連患者搬入、八代市内からの入院受け入れ等に対し、この度熊本県蒲島知事よりお礼状を頂きましたので報告させていただきます。



2月の勉強会報告

2月3日(金)人吉・球磨 産婦人科セミナー

「変化するがん医療：ネットワークナビゲーター制度とがん教育」

熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学分野
教授 片淵 秀隆先生

2月10日(金)第2回人吉・球磨化学療法研究会

「ウイルス感染症とヒトとの攻防」

熊本大学大学院生命科学研究部
血液・膠原病・感染症内科学分野

教授 松岡 雅雄先生

2月23日(木)第85回乳腺カンファレンス

「潜在性乳癌における化学療法の有効性」

当院 臨床研修医 内村 竜太郎先生

「嚢胞内出血を契機に発症した乳癌の一例」

当院 臨床研修医 平賀 円先生

2月27日(月)人吉・球磨・えびの地区整形外科合同カンファレンス

「不安定型大腿骨転子部骨折に対して骨接合を行い Nail (髄内釘) が破損した1例」

当院 整形外科 大野 貴史先生

「加齢に伴う運動器疾患とアミロイドの関係」

当院 整形外科 柳澤 哲大先生